

だっこするよ

2025年11月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

今こそセンス・オブ・ワンダー

ひと雨ごとに秋が深まり、玄関わきの樺や桜の木々たちもほんのり色づきはじめました。先月は、どんどんさん、ぐんぐんさんの親子芋掘り遠足、ご協力有難うございました。皆「お芋、美味しかったよ」と嬉しそうに話してくれました。自分で掘ったお芋は格別ですね。

園庭にも紅葉が始まり、ビオ（生きもの）トープ（場所）＝草花や虫など多様な命が共に生きる場所になっています。そもそも…私たちも地球の生命の一員、植物や小さな生き物と共生していく場に園がなっていけたら嬉しいです。

生命の尊さや不思議さ、その美しさに心を動かす感性を日々感じる「センス・オブ・ワンダー」です。足元の落ち葉や枯れ草の下に、目に見えないけれど、小さなカビやバクテリアが住み、その栄養をミミズやダンゴムシたちが食べて、土をほぐして、空気や水を通りやすくします。そして、そのミミズを鳥たちが食べて、鳥のフンは、また土の栄養となり、植物は育っていく自然の循環の流れ＝命のつながりを感じて欲しいです。

散歩に行くと枝やどんぐりがどっさり！！みんな大好きですね。きっとそこで、風の音、土の匂い、落ち葉の感触…みんな心の奥深く、感性のひだに触れていると思います。心地良さや美しさの物差しを作る一つにこの自然との触れ合いがなっていると思います。

自然環境の大切さを体感的に理解していく…こうした経験は、スマホの映像では得られない「生

きた学び」となり、子どもの感性や探究心を育てます。身近な自然を大切にし、限りある資源を守る心を育むことは、SDGsの「陸の豊かさを守ろう」にも通じます。日常の遊びの中で未来に続く環境保全の芽を子どもたちと共に育てていきたいものです。

先月、鶴岡助産師をお招きし、保護者の皆様と合同で性教育について学ぶ研修会を行い、ご質問も有難うございました。そして、園では、2歳から幼児組まで年3回、20分ほど「いのち・心・からだの大切さを話そう」という時間を設けています。絵本『あっ、そうなんだ、生と性の話』『だいじだいじ』を通して、「あなたは大切な命、あなたを命懸けで産ってくれた人がいるんだよ」と伝えようと、子どもたちは誇らしそうに顔を輝かせます。自分が大切な存在だと知ることは、心の根っこに喜びを育てることだと感じます。鶴岡先生は、「性教育は特別なことではなく、トイレの始末や着替え、体を清潔にする、こうした日常のふれあいが入り口です」と話されました。丁寧に「心と体」の大切さを伝えていきます。

NHK特集「加害の扉が開くとき」（10月20日放送）では、中高生がスマホからどんどん過激な性的情報に触れていく、そして、性犯罪の加害者になり、その更生が難しいという内容でした。一度成功すると盗撮を止められず逮捕を繰り返してしまう脳のしくみ。性犯罪の身近さと怖さに、強い衝撃を受けました。乳幼児からの性教育は、子どもたちを「守る教育」です。「この人、変だな」と感じたときに、「イヤダ！」と言う。信頼できる大人へすぐに相談すること、性被害を防ぐ第一歩です。ご家庭でも、お風呂や着替えの時間に体や心について話題にしてみてください。

先日、性教育の話の後に、感想を尋ねるとぐんぐんさんが手を挙げ「生まれて嬉しかった」と。すると周りの子どもたちも次々と「僕も」「私も」と声を上げ、笑顔が広がりました。自分の命を喜ぶ子どもたちの姿に胸が熱くなりました。命がけで産んだ子どもたち、スマホではなくて、心と体でつながる愛で育てていきたいですね。秋の夜長、寝るまでのひと時、お膝にのせて絵本を読んでみませんか。写真：親子芋ほり遠足 たくさんお芋を掘るぞ！